

手術映像 3D化し伝送

F.A.S.Eが実験 東北大から高松へ

システム開発のエフ・エー・システム・エンジニアリング（F.A.S.E、松山市）などは18日から高松市内で開かれる国際遠隔医療学会で、コンピ

ューター断層撮影装置（CT）の画像と手術の映像を3次元（3D）処

理して仙台市の東北大学から伝送する実験を行う。学会の医師らに臨場感を体験してもらい、F.A.S.Eが手掛ける3D映像機器の普及につなげる。

実験では腎臓がんのCT画像と、それを見ながら手術した際の映像を3D処理したコンテンツを

あらかじめ準備。東北大の研究室で再生し、独立行政法人情報通信研究機構が運用する研究機関向けネットワークを使って学会会場に伝送する。参加する国内外の医師らは専用モニターで裸眼のまま立体感のある映像を見ることができ

る。3D映像の伝送技術を活用すれば、遠隔地にいる医師らが同時に会議や診断をした

実験では1つのモニター画面にCTの3D画像と手術の3D映像を同時に映し出す。これにより遠隔地でもその場に立ち会っているかのように、CTの3D画像を見なが

ら臓器や脂肪に隠れた血管や神経の位置を把握し、手術を進める様子がわかるという。

F.A.S.Eは医療分野向けに3Dで撮影するカメラや映像編集装置を開発

きるとしている。

り、最先端の手術の模様を若手医師が学んだり

できるとしている。